

# 令和元年度 第8回キッズ・モニターアンケート

## 「手話（しゅわ）について」実施報告

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。  
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

### 実施概要

1. 実施期間 令和2年1月31日～2月14日
2. 回答者数 209人
3. 回答率 38%

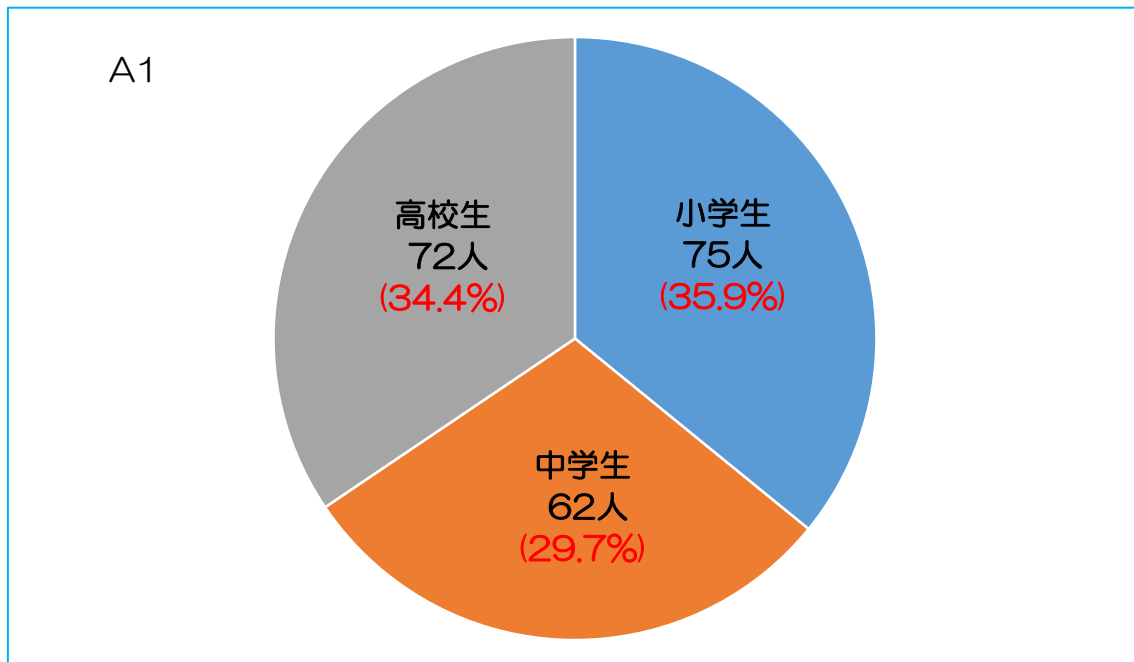
### アンケート結果概要

#### Q1 あなたの年代について【1つえらぶ】

あなたの年代はどれですか？

- ① 小学生    ② 中学生    ③ 高校生

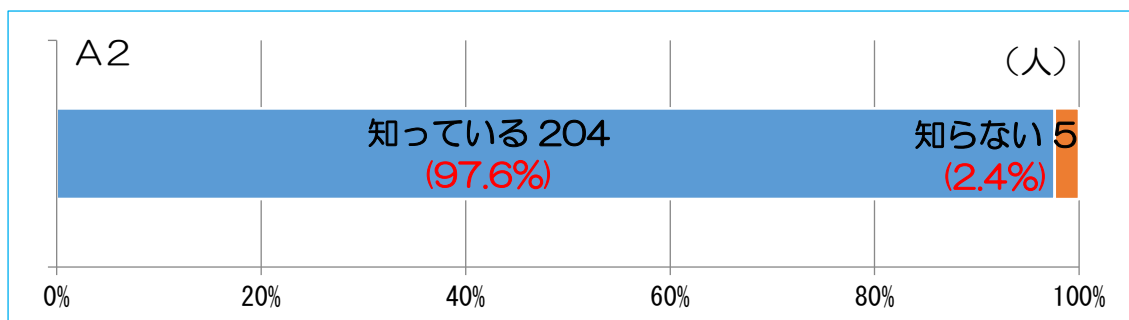
今回答えていただいた方の年代は、下の表のようになりました。



## Q2 手話について(1)【1つえらぶ】

あなたは、「手話」というものがあることを知っていますか？  
※手話が使えなくてもかまいません。

- ① 知っている    ② 知らない



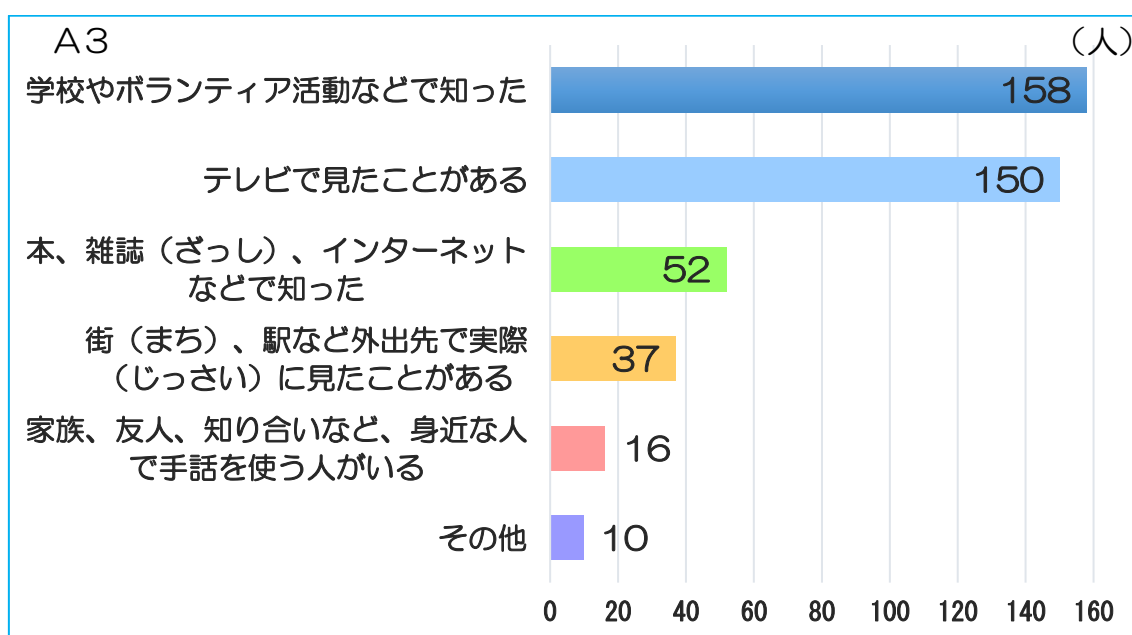
ほとんどの人が「手話」があることを知っていることがわかりました。

### Q3 手話について(2)【いくつでも】

Q2で「知っている」と答えた人にお聞きします。

「手話」をどのようにして知りましたか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① テレビで見たことがある
- ② 学校やボランティア活動などで知った
- ③ 本、雑誌（ざっし）、インターネットなどで知った
- ④ 家族、友人、知り合いなど、身近な人で手話を使う人がいる
- ⑤ 街（まち）、駅など外出先で実際（じっさい）に見たことがある
- ⑥ その他

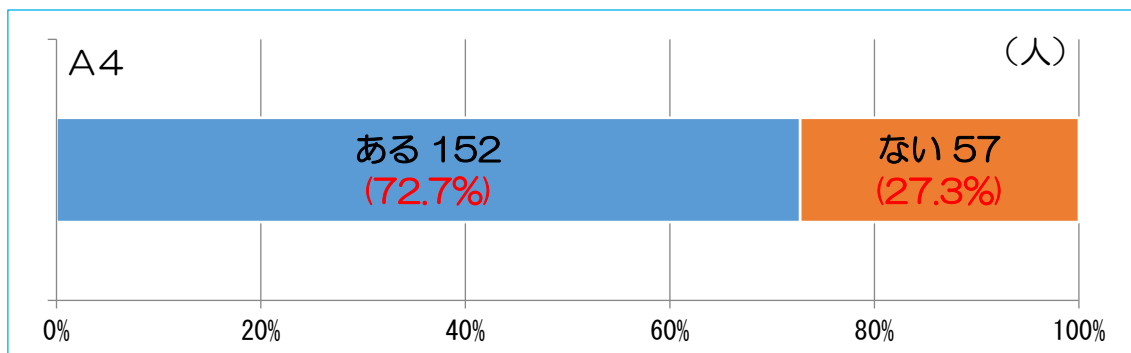


「手話」は学校やボランティア活動、テレビなどで知る人が多いことがわかりました。

#### Q4 手話にふれたことについて(1)【1つえらぶ】

あなたは、これまでに、手話にふれたことがありますか？  
(手話にふれるとは、手話を使う人に会ったり、手話を見たり、体験したり、学んだりすることです。)

- ① ある ② ない



	小学生	中学生	高校生
ある	75%	73%	71%
ない	25%	27%	29%

10人のうち7人が、手話にふれたことがあることがわかりました。また、年代が低くなるほど、手話にふれたことが「ある」人の割合が高いという結果になりました。

<手話にふれたことのある人の割合(キッズ・モニターアンケート)>

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
59.4%	63.1%	64.2%	72.7%

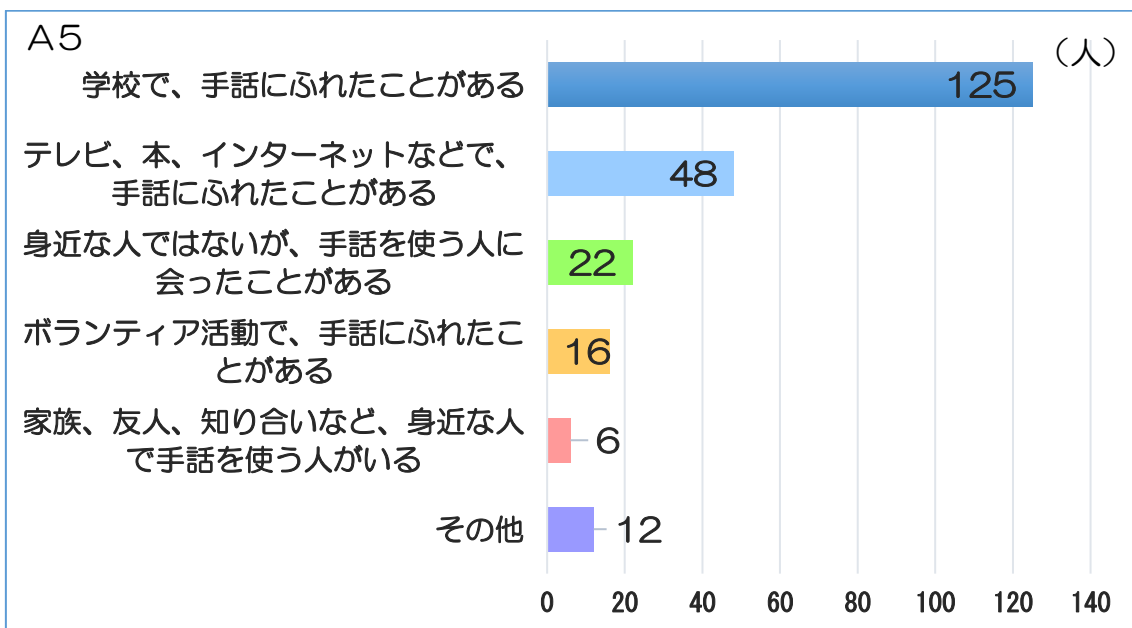
手話にふれたことのある人の割合は、年々上昇しています。

### Q5 手話にふれたことについて(2)【いくつでも】

Q4で「ある」と答えた人にお聞きします。

それはどのような場面でしたか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① 学校で、手話にふれたことがある
- ② ボランティア活動で、手話にふれたことがある
- ③ テレビ、本、インターネットなどで、手話にふれたことがある
- ④ 家族、友人、知り合いなど、身近な人で手話を使う人がいる
- ⑤ 身近な人ではないが、手話を使う人に会ったことがある
- ⑥ その他

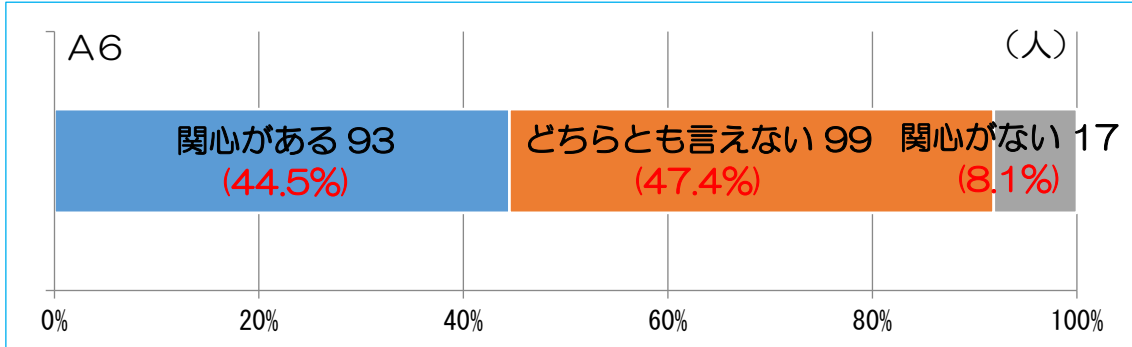


Q3の結果では、手話を知るのは学校、ボランティア、テレビなどでしたが、実際に手話に「ふれる」のは学校が多いことがわかりました。

### Q6 手話への関心について【1つえらぶ】

あなたは、手話に関心がありますか？

- ① 関心がある    ② どちらとも言えない    ③ 関心がない



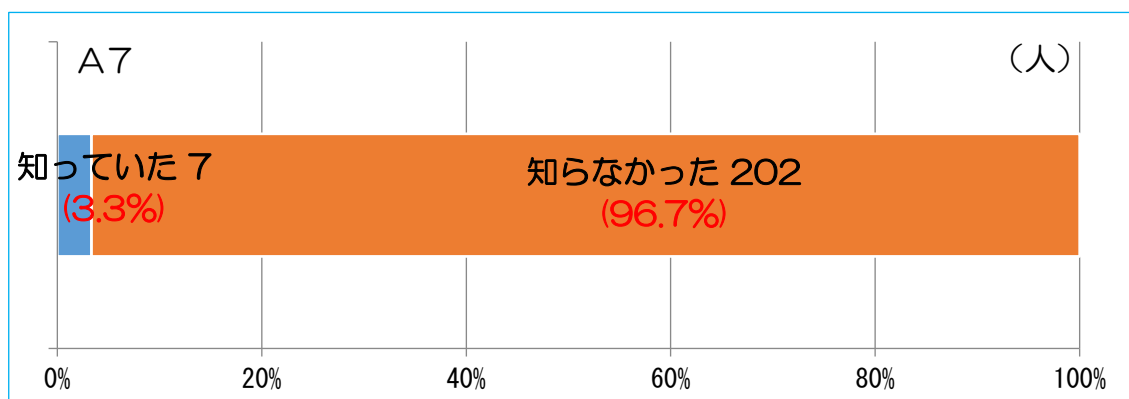
	小学生	中学生	高校生
関心がある	48%	32%	51%
どちらとも言えない	48%	57%	39%
関心がない	4%	11%	10%

手話に関心がある人は約半数であり、関心がない人を大きく上回りました。また、年代別では、高校生の関心度が一番高いという結果になりました。

### Q7 三重県手話言語条例について【1つえらぶ】

あなたは、平成29年4月1日に「三重県手話言語条例」ができたことを知っていましたか？

- ① 知っていた    ② 知らなかった



三重県手話言語条例について、「知っていた」は、前回調査（平成31年1月実施）の4.0%からほとんど変化がなく、依然として知られていない状況です。

「三重県手話言語条例」では、手話は、ろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）がコミュニケーションをとるための大切な「言葉」であることや、県は、手話を使いやすい環境づくりを進めること、また、県民のみなさんの役割として、手話への理解を深めていただくこと、などを定めています。

三重県では、条例に基づく取組を進めることにより、聞こえる人とろう者が、おたがいを尊重（そんちょう）し、だれもが手話に親しみ、手話が広く利用される社会になることをめざしています。



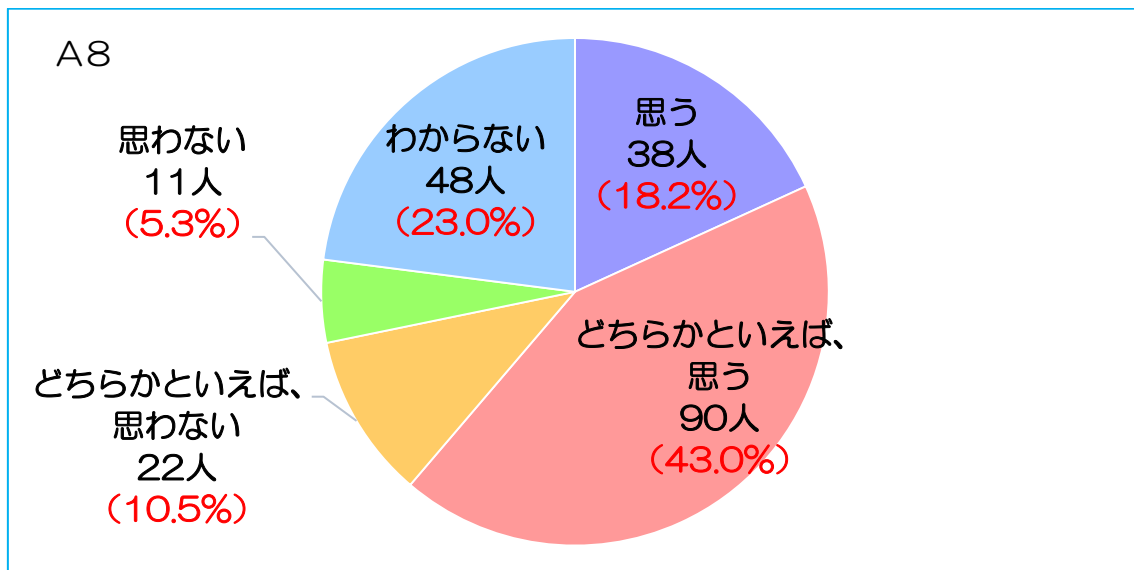
#### 「できるカモン」

一般社団法人三重県聴覚障害者協会  
マスコットキャラクター  
（手話をしている様子を表しています）

### Q8 ろう者について【1つえらぶ】

あなたはろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）と話したいと思いますか？

- ① 思う
- ② どちらかといえば、思う
- ③ どちらかといえば、思わない
- ④ 思わない
- ⑤ わからない



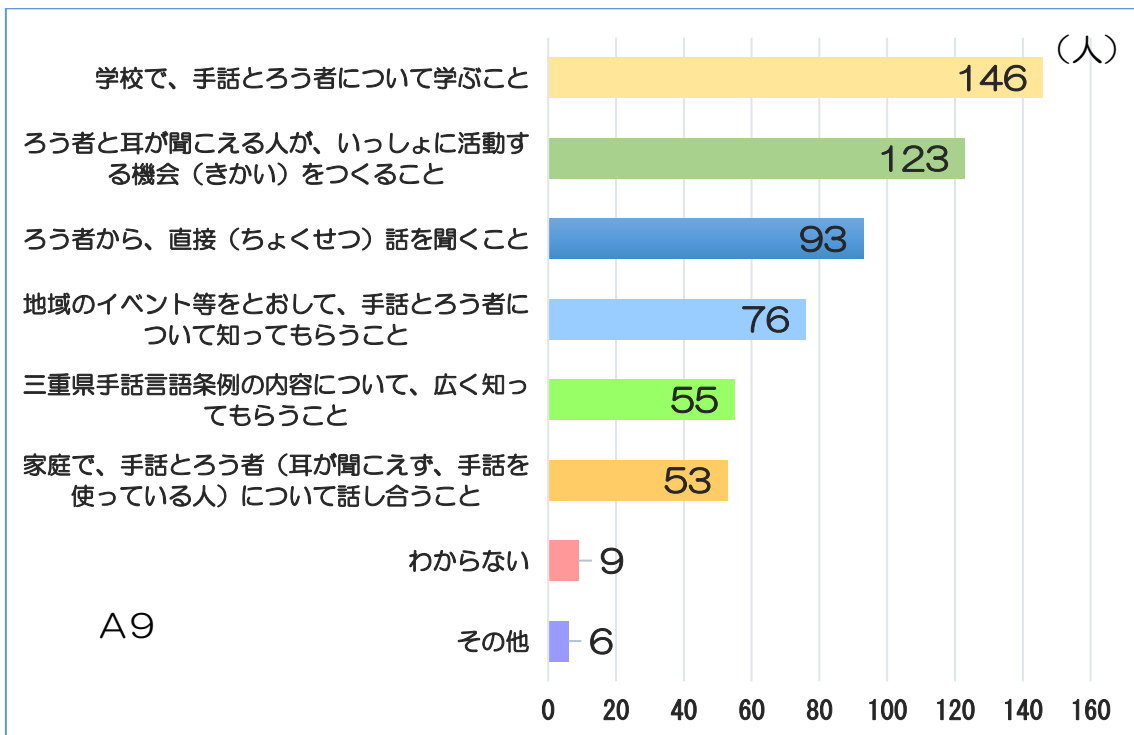
「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とする回答が6割を超えているものの、「わからない」とする回答も多く寄せられました。



**Q9 「手話」が使われるために必要なことについて【いくつでも】**

あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① 家庭で、手話とろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）について話し合うこと
- ② 学校で、手話とろう者について学ぶこと
- ③ ろう者から、直接（ちよくせつ）話を聞くこと
- ④ ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会（きかい）をつくること
- ⑤ 地域のイベント等をとおして、手話とろう者について知ってもらうこと
- ⑥ 三重県手話言語条例の内容について、広く知ってもらうこと
- ⑦ わからない
- ⑧ その他



「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、多くの方が「学校で、手話とろう者について学ぶこと」が必要と考えていることがわかりました。また、「ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会をつくること」や「ろう者から、直接話を聞くこと」といった交流の場が必要という回答も多く寄せられました。

### Q10 あなたの持っている「手話」のイメージについて【自由回答】

あなたの持っている「手話」のイメージについて、教えてください。  
(例 耳が聞こえない人のことばである。カッコいい。むずかしそう。など)

「むずかしそう」「おぼえるのがたいへんそうだ」などが多い一方で、「使う人はすごい」「カッコいい」なども目立ちました。

いくつかの意見を選びましたので、紹介します。

- 単語や文字などの組み合わせが多く覚えるのが大変そう。
- 難しそうだけど、習得すれば、世界がひろがる。
- 手話を使ってみたいと思う。手だけを使って話ができるのは面白いと感じる。
- 表現として素敵だと思う。国語や英語を学ぶのと同じように、手話を学ぶ機会があればいいのに。
- 学校の出前授業みたいな形で教えてもらえる機会があればもっと身近になると思う。なかなか今の日常生活では接する機会がない。
- 環境があるかないか。保育園で手話を習ったけど今まで使う機会がなかったから、習ったことの半分以上は忘れてる。保育園だけでなく、小学校の授業でもそんな時間があれば。
- 手話ができる人、手話ニュースをみると、表情豊かでとても良い印象。カッコいいし、自分もマスターして、人の役に立てたらよいと思う。
- 難しそうで、覚えるのが大変。相手の手話を見ても、手話の動作が速いとわからない。
- 耳が聞こえない人のためにある言葉。難しそうだけど、これを使って会話してみたい。